

水没しても河川水位観測

河川の水位などを観測する機器類を収容する耐水型の「局舎（シェルター）」を、岡山市内の設備メーカーが開発した。大部分が水没する状態が長時間続いても内部への浸水を防げるのが特長。住民に危険を知らせる公共インフラの強靱化につながる製品としてアピールしている。

アルミニウム合金による溶接一体構造で、通信・放送用設備などを手掛ける山陽電子工業（同市中区長岡）が製造。高さ2・65メートル、幅2メートル、奥行き1・8メートル、重さ約960キログラム。機器の搬入口にはふた状の扉が付いており、12個のボルトで固定する。換気口や配線の取り込み口などは2メートル以上に設置しており、それより下の部分が水没して最大2メートルの水圧がかかっても3日間

山陽電子工業 耐水型局舎を開発



は浸水しない。

局舎は河川のそばに設置され、水位計やカメラが取得したデータを内部の機器が処理して監視施設などに中継する。しかし、従来のものは防水タイプが多く、2018年の西日本豪雨では、愛媛県の鹿野川ダムで放流警報所の局舎が多数浸水する被害が発生。スペースやコストの制約などから移設、かさ上げといった対策が困難なケースもあることから、水害にも対応できる製品として開発した。

昨年12月から本格販売を開始しており、オープン価格（参考価格は税別980万円）。山陽電子工業によると、2メートルまで水没しても耐えられる構造の局舎は国内初という。

同社は「近年の異常気象では空港や鉄道などの重要インフラも大きな浸水被害を受けており、幅広いニーズがあるはず。社業を通じて社会貢献できれば」としている。（河内慎太郎）

山陽電子工業が開発した耐水型の「局舎」。2メートルまで水没しても内部への浸水を防げる